工業つ子

No.178
―発行日―
2019.01.18
―編集―
長崎工業高校新聞部
―発行―
長崎工業高校新聞部

ものづくりの高みへ挑む

高校生ものづくりコンテスト全国大会
電子回路組立　1位　自動車整備　　2位
高校生プログラミングコンテスト　2位

ものづくりの次代を担う長工生が挑戦したさまざまな工業系の各種全国大会。いずれも目覚ましい成績を収めました。

九州の代表として全国で競い、あっぱれ！　一位、二位

高校生ものづくりコンテスト全国大会

十一月十七日、十八日の二日間にわたって東海地方で行われた高校生ものづくりコンテスト全国大会。長工からは電子回路組立部門（会場・静岡県立科学技術高校）にJ3岩永怜也さん、自動車整備部門（会場・沼津学園飛龍高校）にM2高崎海音さんが出場。優勝、準優勝の好成績を収めました。

▲プログラミングを行う岩永怜也さん

自動車の作業に取り組む高﨑海音さん▶

大会を振り返って、

①大会を終えての感想、②行った先で印象に残っていること、③大変だったこと、④最後に一言

の四つの質問を選手に、顧問の先生方には選手への一言を聞いてみました。

最優秀賞
文句なしの実力で快挙
電子回路組立部門
J3　岩永怜也さん

①今までの成果を出せた。②富士山を見ることができなくて残念だった。③山口先生と遠出すると必ずトラブルが起こる。④来年出る後輩も頑張って。

顧問　山口秀昭先生
―プレッシャーに打ち勝ってたのは岩永の実力あってこそ。その力があれば、社会に出ても問題ないと思う。優勝おめでとう。

▲全国一位、受賞の瞬間

優秀賞
尽きぬ向上心持って
自動車整備部門
M2　高﨑海音さん

①例年の課題と傾向が変わっていたが、きちんと対応できたので良かった。四つ課題がある中で、学科が一番できなかったので、改善したい。②他県の人と話した時にあまり方言を使っていなかったこと。③周りの視線やプレッシャーに気をとられず作業すること。④今のままでは全然ダメ。足りない部分を補うために技術の更なる向上を目指したい。

顧問　藤武宏先生
―良い緊張感を持って集中して臨んでいた。ミスなく作業していて良かった。悪いところはなかったように見える。まだあと一年、あと一回ある。頑張れ。

一歩前進の準優勝　次こそは頂点を

高校生プログラミングコンテスト

十一月十七日、埼玉県のソニックシティで開催された第三十九回高校生プログラミングコンテスト本選。長工からはJ3安藤幕平さん、石橋涼輔さん、太田永遠さん、J2工藤慶多郎さん、山本茂和さんの五名が参加。順調に勝利を重ね、決勝戦で埼玉県立越谷総合技術高校と対決。惜しくも敗れ、準優勝となりました。昨年の三位から一歩前進です。

▲競技中の様子です

J3　安藤幕平さん
―去年より好成績でよかった。大変だったのはデバッグ作業。例年の強豪校が決勝にいなかったので驚いた。来年はそこに勝って、優勝してほしい。

顧問　松本浩明先生
―昨年より好成績で、よく頑張ったと思う。頂点を狙えるチャンスがあったのでは残念だった。この経験を来年へのエネルギーにして頑張ってほしい。

生に大会の感想など聞いて見ました。

選手も先生も今回の結果に手応えを感じつつも来年に向けて大きな期待を寄せられていました。

年を追うごとに成績を伸ばしている長工。この良い流れに乗って、ぜひ来年は優勝を。

今日の一枚　～手作り弁当～

今日の一枚は手作りお弁当の写真です。このお弁当は本校の前生徒会長、山口紗杏先輩が作ったものです。中身はふりかけご飯、卵焼きにプチトマトなど。栄養と色のバランスが取れた、おいしそうなお弁当でした。「手作り」だとより温かみが感じられますね。ああ、思い出すだけでもお腹が鳴りそう……。

最近のこのコーナー、食に関することばかり書いているような気がします。明日、面白い話題を探しに校内を歩き回ってみようかな。（中野）

違いを受け入れる

とうとう二〇一八年も終わり、二〇一九年となりました。そして、今年は四月までは「平成三十一年」、五月からは新元号です。皆さんは自分の生年月日をいう時、よく使うのは西暦、それとも元号、どちらでしょうか。

「あなたはどっち？」のようなもの、日常の中に結構あります。

例えば朝食のパン派とご飯派。右利きと左利き、動物の犬派とネコ派など。生活習慣や衣服の好み、話してみると、身近で良く知っている人同士でも意外な違いがあったりします。この小さいようで大きな違いを新鮮な発見として楽しめるか、越えがたい壁と思ってしまうかで、世の中随分変わる気がします。

発見に繋がるケースは自分とは違う考えや行動をする人に「なぜ」の気持ちをもって、なぜそうなのか相手の話を聞いみたり、相手の身になって考えてみたりしたときです。するとそれまで見えていなかったものが見えたりします。お互いがさまざまな視点から物事を考える雰囲気があると世界は広く柔軟になります。

「十人十色」という言葉の通り、世界には様々な考えを持った多くの人がいます。もちろん家族、友人、どんなに親しい人でも、まったく同じ考えの人はいません。自分の常識が、周囲の人の常識であるとは限らないのです。そのことをしっかりと理解し、相手の意見も受け入れながら、考え、行動できればと思います。

多様化していく私たちの世界。違いを受け入れることができるようになれば何よりも自分自身が楽になる気がします。

相手のことを思う想像力を持ち、「対立」ではなく「調和」ある関係の構築を日々の生活の中から目指したいものです。

世界の平和も、身近な一歩から。小さなことの積み重ねが大きな世界を動かします。（山口）

「自分の夢を諦めない」

人生の達人セミナー

十月三十日に行われた人生の達人セミナー。今年度の講師は中西弾さん。中西さんはOMURA室内合奏団で活動されていて、二年前の本校でのスクールコンサートでも演奏を披露されたお方です。

まずはバイオリンの演奏から始まった講話。ご自身の体験を踏まえながら「一番好きなことは大切にしよう」「周囲の人と協力しよう」など生きていく上で大事にしてほしいことを話されました。

▲吹奏楽部員との交歓会

中西さん自らが作曲されたオリジナル曲二曲と「ひまわりの約束」「情熱大陸」の計四曲の演奏も交えられながら行われた今回の講演会。終了後には視聴覚室で吹奏楽部との交歓会も実施されました。

中西さんに本校で講演をされてみての感想を伺うと「皆、真剣に聞いてくれ、こちらが感動した」とのこと。また、音楽以外で好きなことを伺うと「音楽以外では釣りやキャンプ、マラソンが趣味。さまざまなことに挑戦してきたが、次はハングライダーに挑戦してみたい」とアグレッシブな中の一言をお願いする「皆さん将来の夢や目標があると。実現できるように諦めずに頑張ってください」とエールを送ってくださいました。

青春日記

冬、本番です。寒いですねえ。冷え症の私にとって冬の寒さは人一倍つらい。

さて、最近の話題と言えば、何といっても「自動車学校」。私も今月から通い始めました。父親が車好きで中型バイクを持っているので、四輪車だけでなく普通二輪もとることにしました。

入校日に行った適性検査の結果は、驚異の「1E」という最低ランク。実は自分よりも前に適性検査で「1E」だったクラスメイトの話を聞いて心の中で「ははっ、面白い」と思っていました。まさか、自分もそうなるとは……。そういえば、二年前の青春日記担当者も同じ結果だったような気がします。これは運命なのかもしれません。

「適性検査に勝つ」と意気込み通う自動車学校。二輪車も四輪車も、外に出れば皆が当たっています。前のように乗ってもすぐ乗りこなせると思っていましたが、そう甘くはありませんでした。二輪車は実際に扱ってみると「重い」。その重さにびっくりでした。新鮮な体験に出会うと自動車学校。もちろん高校卒業よりもずっと前に卒業する予定です。きっと。

二〇一八年、私は自分は目標を達成できたかといえば…わかりません。なぜなら、どんな目標を立てたかを忘れたから。皆さんは覚えていますか。次は「目標を覚える」を目標の第一にします。

二〇一九年もよろしくお願いします。（渡部）

お検査によると「あんがち冷静ですが、実はかなり思われの寂しがりです」とのこと。そうなんですかね。

「クールに出れば冷静に」と「あなたは

技能五輪 培った加工技術、発揮した大舞台

十月下旬から十一月上旬にかけて沖縄県で技能五輪全国大会が開催されました。木型（宜野湾海浜公園）家具・建築大工（浦添運動公園）の三部門に五名の長工生が出場しました。出場者に大会の感想など聞いてみました。

選手への質問は次の四つです。

①大会を終えての感想。②行った先で印象に残っていること。③大変だったこと。④最後に一言。

成果を発揮し一名が敢闘賞

木型職種

敢闘賞

Ｉ３　太田彩絵さん

①目標とする結果が出ず悔しかった。②自転車でサイクリングが楽しかったこと。③腰が痛くなったこと。④来年出る後輩は大会を楽しんでほしい。

敢闘賞

Ｉ３　坂上雅治さん

①二年間の成果が出せた。②海が綺麗だったこと。③精度を高めること。④社会に出て仕事を頑張りたい。

Ｉ３　山村晃永さん

①二年連続で出たが、結果が出せずに悔しい。②先生達の本音が聞けたこと。③普段しないミスをしてしまったこと。④今まで学んだことを社会に出てから生かしていきたい。

▼坂上さん（木型職種　敢闘賞）

▲太田さん（木型職種　敢闘賞）

▲倉崎さん（建築大工職種）

楽しく競えた

家具職種

Ｉ３　許冬威さん

①今まで一人で練習してきたので、会場で他の選手と競えて楽しかった。②ロシアンたこ焼きを食べたこと。③時間内に収めること。④後輩の指導を頑張る。

顧問　北川友也先生

普段しないミスをしたり上手く体調が整わなかったりと状況はそれぞれだったが、練習した成果は出ていたと思う。

将来に役立つ良い経験

建築大工職種

Ａ３　倉崎耀琉さん

①辛い事もあったが良い経験になった。②選手の多さと大会規模。③睡眠時間の確保。本番は原寸図の遅れを取り戻すこと。④自分の将来に役立つ良い経験になった。後輩にも技術を継承したい。

顧問　小川桂太先生

始めは滅多にしないミスがあり、緊張しているようだったが、だんだんいつもの調子に戻り、最終的には余裕を持って終わることができていた。

（木型職種・家具職種）

選手の皆さんお疲れ様でした。大きな舞台に挑戦した皆さんの今後の活躍を期待します。

▲長工一行で記念写真

失敗編 てふ工生！！！ パート③

～全部見てたよ～

※「かくしごと」はできません。

「ふるさと」の魅力 新聞で披露

ふるさと甲子園予選

十月二十七日、文化祭で実施された「ふるさと甲子園予選」。長崎市及び周辺を二十四地区に分け、担当した地区について各クラスで模造紙で制作した「ふるさと新聞」。体育館後方に展示された新聞は見応えがありました。観られていた先生に感想を伺うと「自分の地元であるに惹かれた」「自分たちの足でその場に赴き、調べたり学んだりするのはとても

▲どの新聞が良いか迷います

いい経験。どれも工夫が施されていて見て楽しかった」「どの新聞も見やすく、クラスの個性を感じた」と好評でした。

先生方と一般の来場者の投票で予選を突破したのはＥ３、Ｉ３、Ａ２。感想を聞いてみました。

☆予選突破三クラスへのインタビュー

Ｑ①工夫したこと

Ｑ②大変だったこと

Ｑ③感想

◆Ｅ３

①わかりやすくするために実際にいろいろ体験してみたこと。②パソコンでつくると決めてからソフトの使い方から勉強したこと。③イラストや装飾なども少し入れたかった。

◆Ｉ３

①短期間で集中制作。②なかなかモチベーションが上がらなかったこと。③三年生最後の良い思い出になった。

◆Ａ２

①できる限り見た目を明るくしたこと。②レイアウト、新聞のルールを守ること。③想像していたものより良い出来に仕上がった。

▲右から順にＥ３、Ｉ３、Ａ２の ふるさと新聞

シリーズ ロボコン道 ⑨

振り返り「二〇一八」

▲昨年十一月の技能まつりにて

福祉施設に持って行くおもちゃは引き続き製作中です。

十一月の技能まつりでは私たちロボット研究部は操作系のゲームを作成。多くの人に楽しんでいただき、誰かのためにものづくりをする喜びを改めて感じられました。

二〇一八年は県大会で優勝し全国大会に出場することができましたが、全国大会では良い結果は出せませんでした。人のため自分のため、良いものづくり技術者になれるよう引き続き励みたいと思います。（Ａ２　出口）

多彩な表現で長工生を魅了

芸術鑑賞会

十一月六日（火）、本校体育館で上演された人形劇「三国志～総集編～」（劇団・影法師）。

（劇団・影法師）。

歯切れの良い講談調の説明を交えた『三国志』の有名な場面をテンポよく、大型の人形を巧みに操り、生き生きとした劇を見せてくれました。芸術鑑賞会終了後、劇団の方にお話を伺いました。

▲赤壁の戦いで大敗する曹操軍

▼神山さんと諸葛孔明の人形

インタビューに応えてくださったのは関羽を担当された神山晃人さん。

Ｑこの仕事にをされるようになったきっかけは。

―私も工業高校出身で、人形のからくりへの興味から人形を作ってみたいとか入団しました。

Ｑ人形で劇をする上で工夫されていることは。

―物語の一役だけを担うために一体の人形が製作され、人形それぞれに個性がある。その個性を生かせるよう、劇を客観的見、人形の動きを考えながらやっています。

Ｑ『三国志』を題材にしたのは何故ですか。

―『三国志』は日本で中国の原作をもとに江戸時代から今日までさまざまな人がいろいろな視点から描いています。そんな日本人に好かれているものを若者、高校生に知ってもらいたかったから。

Ｑ本校で上演しての感想をお願いします。

―集中して聞いてくれていた。小さなことにも反応してくれて嬉しかった。

時間がない中、熱く話してくださった神山さん。ありがとうございました。

ちなみに人形の重さは約三～四キロ～約十キロとのことでした。

長工生な☆日々 デザ研編②

こんにちは。デザ研な日々、第二弾です。今回は「うす削り大会」の話です。「うす削り大会」ってどんな大会だと思いますか。

「うす削り大会」とは、カンナという工具を使い、百八十cmの木材をどれだけ薄く削れるか競う全国大会です。十一月十七日に福岡県久留米市で盛大に行われました。九州での全国大会、貴重な機会ということで私たちも参加させていただきました。会場に入ると外国人や貫禄がある人ばかりで圧倒されました。うす削りをやる上で私が心がけていたのはカンナの裏の面を整える「台直し」と刃の調整、引くときの力の抜き方です。二年生部員の某エンターテイナーガールは、大事なのは「気持ち」と言っています。デザ研の最高は彼女の０・１６ミクロン。大会では薄く削る人は０・０３ミクロンを出す人もいました。ミクロンはmmの千分の一です。実際に削った作品を拝見しました。薄いものを出せる人間が居るのかと思わず感動しました。ただ「削る」と言うとそれまでですが、そこには壮大で奥深い世界があります。あなたもこれを体験するとはまってしまうはずです。

（岩田）

編集後記

一月も中旬を過ぎようとしています。二〇一九年最初の新聞がやっと発行できます。人手が不足している中での部員の体調不良などを乗り越え、やっと……。慌ただしい三学期ですが、全力で頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします。